



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

特定外来生物

ナガエツルノゲイトウ 駆除

生態系と治水を脅かす

「ナガエツルノゲイトウ」は、南米原産の水辺に繁殖する植物で、繁殖力の強い特定外来生物です。印旛沼でも流入河川を含めて到る所で繁殖が見られ、水辺の生態系を脅かしています。また、洪水時には印旛沼の洪水排水を担う大和田排水機場のスクリーンに群落のまま漂着するため、除塵作業が追いつかず一時的に所定の排水が出来ない事態が発生し、印旛沼の治水面での安全性を脅かしている状況です。更に、印旛沼堤内地側にある低地排水路を通じて農地へも侵入し、強い繁殖力から営農に影響が生じるなど、印旛沼地域全体の問題として年々深刻な状況となっています。

協働しての駆除作業

このため、昨年7月から11月にかけて、印旛沼に通じる新川に流れ込む桑納川（かんのがわ）（八千代市内）において「ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦」が行われ、千葉用水総合管理所は、印旛沼流域水循環健全化会議（※1）、千葉大学、東邦大学、各市民団体、千葉県、千葉市、八千代市、土木研究所、印旛沼土地改良区などの皆さんと一緒に

に駆除作業に取り組みました（計4回参加）。

また、今回で5回目となる水土里ネット印旛沼（印旛沼土地改良区）佐倉西部地区主催による「外来植物の防除を地域力で！2015」が、昨年10月3日佐倉市臼井田干拓「通称：かっぱ公園」の低地排水路にて行われ、千葉用水総合管理所は、印旛沼連携プログラム（※2）により参加された「NPO美しい田園21」の皆さんや企業及び行政機関の皆さんと一緒に駆除作業に参加しました。

将来の解決のために

ナガエツルノゲイトウの駆除は印旛沼の生態系保全と治水リスク低減など、印旛沼地域全体の課題として今後も継続して取り組んでいく必要があります。この課題は一朝一夕に解決するものではありませんが、少しでも多くの方に関心を持っていただき、この取り組みに多くの方が参加して頂ければと考えています。

（※1）

印旛沼流域の再生を目的として、学識者、市民団体、行政機関、研究機関など印旛沼に関係する者で構成。（※2）

市民・企業と行政が一緒になって、印旛沼や周辺河川・水路の美化・浄化などを進めていくための取り組みで、沼・川・水路の管理者が市民団体や企業による美化活動等支援している。



刈り取った群落をボートで運ぶ



様々な方と協働での駆除作業